

〈研究ノート〉

江戸から明治期における「今日は」

倉持 益子

キーワード：あいさつことば, 今日は, 遊里, 江戸期, 明治期,

1. はじめに

出会いのあいさつとして代表的な言葉「こんにちは」は、かつて目上の人には使えないとされていた。現在でもこのままの形では敬意を表しにくいため、「こんちわっす」等の変形を生んでいる。この敬意希薄な印象はいかにして生じたのか。この語の発生と変遷から考察したい。

2. 江戸期における一般的な出会いのあいさつ

江戸期の都市部は、出会いの時に特定のあいさつ言葉を必要としなかった。朝のあいさつは「おはよう」系が多く見受けられるが、それ以外の時間帯になると、目礼（会釈・お辞儀）、相手の名や身分を口にすることであいさつとしていた。

3. 発生と拡大

「今日は」は「今晚は」と共に、「ありがとう」等の後半部を省略した言い方として上方の遊里で発生したとされる⁽¹⁾。江戸では、19世紀に入り広まったと見られる⁽²⁾が、その使用は改まった場でのあいさつではなく、庶民同士の気のおけない軽いあいさつで使われている。

4. 幕末明治期のあいさつ言葉の英訳・和訳

幕末から明治にかけて出た英日・和英辞書や会話集・英語単語本は、その多くが意味のみの記載（例 Good-bye 暇乞い）かあいさつ言葉を対象としないもので、本研究で見出した会話体訳のあるものは7種だけである。その中でも昼間における出会いのあいさつ言葉“Good Day”とその訳は、特

に少数である。外国人向けの日本旅行ガイドブックでも、「ありがとう」「さようなら」「おはよう」に比べ明らかに記載が少ない。J. C. Hepburn (1872)⁽²⁾では、「今日 (こんにち)」だけで“Good Day”として紹介されていた。これを除けば「今日は」は明治期に2例のみということになる。

ありがとう	8	さようなら	6	おはよう	6	今日 (は)	3(2)	今晚は	2
-------	---	-------	---	------	---	--------	------	-----	---

5. 明治における学校教育での扱い

小学校においては、「おはようございます」の推奨は出てくるが、「今日は」の勧めは出てこない。教科書に書かれている日中の知人との出会いのあいさつは「おお、○君」である⁽⁴⁾。

6. 考 察

江戸期前半，“today”を表す日本語には「けふ」と「こんにち」があった。日常的な「けふ」に対し、「こんにち」にはやや改まったニュアンス（非日常性）が感じられる。したがって、「今日は」は「今晚は」と共に、非日常的空間である遊里などであいさつ言葉となっていった可能性は高い。その遊里の言葉が、流行表現となって広がり江戸まで来たのではないかと。

その出自のため、改まった挨拶として使えず敬意を表しにくかった。幕末から明治初期、英語「Good-day」の訳として「こんにちは」は辞書に出てくることは少ない。これは、辞書に記載することで外交やビジネス等改まった場で使われることを避けるための配慮かもしれない。旅行ガイドブックには明治後半から少数の記載がある。これは相手がサービスをする側、すなわち敬意をさし必要としない日本人に対するものであるからではないだろうか。

明治期学校教育の場に出てこないのは、教育的なものに見なされていなかったためとも考えられる。また、このあいさつはたいてい学校外での使用となるため、方言か相手の名（身分）を呼びお辞儀をするだけでこと足りたため、わざわざ教える必要もなかったのであろう。

〈注〉

- (1) 前田勇 (1964)『近世上方語辞典』, 東京堂, P441
- (2) 式亭三馬 (1813)『浮世床』初編卷之上に「今日は」が、鶴屋南北 (1825)『東海道四谷怪談』には「今晚は」が、気軽なあいさつ言葉として出ている。
- (3) 杉本 (1989)では、この辞書は庶民の言葉も取り入れたとある。
- (4) 文部省小学教科書 西邨貞 (1888)『幼學読本第四』第十六課「おほかみときつね」より

参考文献

- 式亭三馬 (1813)『浮世床』, 初編卷之上, 中西善三校註 (1955), 日本古典全書, 朝日新聞社, p.105
杉本つとむ (1989)『西洋人の日本語発見』, 創拓社, p.258

- 鶴屋南北（1825）『東海道四谷怪談』，郡司正勝校註（1981），新潮社， p.63
西邨貞（1888）『幼學読本第四』，第十六課「おほかみときつね」
前田勇（1964）『近世上方語辞典』，東京堂， p.441
J. C. Hepburn（1872）『英和語林集成（再版）』，日本横浜梓行